

ベトナム、フエ京城都市における伝統的庭園住宅の 保存と変容に関する研究

河野 友洋

キーワード：伝統木造建築、自然災害、保存、ベトナム

1. 研究の目的と背景

ベトナムでは技術・政策の変化や経済発展により、急速に伝統的な木造住宅様式が失われつつある。中部の世界遺産都市フエ、シタデル（京城都市）では当初の都市の主要な構成要素であった伝統的庭園住宅と呼ばれる広大な敷地に建つ木造伝統様式が、住民のニーズに合わせた修繕、増築や土地分割を経ながら、バラックやショップハウスと呼ばれる細長い2~3階建ての住居が混在した状況へと変容している。自然災害や経年変化、戦争、高価な木材価格や洗練された技術による高額な修復費用、人口増加と都市の過密化、高額な土地税、これまでの木造家屋の不便さ、収入源の変化など多くの変容に向かう圧がある一方で、政府による伝統住宅修復プログラムの開始や、一概にはくくれない各家固有の事情など、保存へ向かう圧も存在する。本研究ではベトナムの前王朝である阮朝の都であったフエ市内のシタデルにおいて、主に王朝時代に王族、貴族、高級官僚らのための住居として建築されたその伝統的庭園住宅を対象として選択した。現存する個々の伝統的庭園住宅とその所有者に焦点を当て、インタビューと実測調査により、政策や経済発展、戦争、自然災害といったマクロ要因と、住民の経済、家庭状況や住居の修復、維持行為などのミクロ要因がどのように保存の現状を形成してきたかを明らかにすることを目的としている。

2. 現地調査の内容

論文の内容は主に現地調査の結果に基づいている。調査は、現在までの保存と変容のプロセスを把握のために、政策的要因、経済的要因、自然災害による被害、戦争による被害、家族の変化、住環境の改善の6つの要因それらが典型のおよび複合的に表れている8件の住宅を Nguyen Ngoc Tung 氏の研究^{注1)}を参考に選定した。調査の内容はその住民に対するインタビュー、住宅の実測調査、写真撮影である。

3. 結論

シタデル内の91件の伝統的庭園住宅の内、調査を行ったのは8件のみである。しかし、いくつかの視点から分類すると、それでも論理的な帰結が導き出せる。収入と1999年の大洪水による被害に着目して Le The Du 邸と Tran Thi Tram 邸を比較すると、1) その被害は確かに脅威であり、経済的な弱者の住宅に大きな損害を与えている。その後、政府の政策により修復プロジェクトが実施されたものと土地収容に脅かされるものの格差が生みだされていることが分かる。また、阮朝時代の地位と家の規模という点から、高級官僚を祖先に持ち3柱間の主屋を持つ Bui Thi Phuong Xuan 邸、Pham Quang Hong 邸、Phan Huu Hiep 邸に着目すると、2) 現政権を信用せずその支援を受けたくない、自分達で住宅を所有し守っていく、という声が聞かれる。Xuan 邸は究極のケースで、1975年の戦争以来無職で収入面では苦しい自給自足による生活を営んできたが、その内には戦争により社会が変わっても誇り高く生きていくという思いがあることが読み取れる。伝統的庭園住宅は、住民のそのような思いの拠り所となっていると考察される。

注1) Nguyen Ngoc Tung : Transformation of Hue Traditional Garden Houses in Hue Citadel area Vietnam, 2007